WORLD HERITAGE

NEWS Letter

世界遺産ニュースレター

世界遺産富士山の後世継承に向けて

特集

今夏の富士登山者数と保全協力金の状況

富士山世界遺産センター（仮称）
建設工事の状況

研究員コラム
近代化は山から始まったか？

平成28年11月20日 静岡市清水区薩埵峠より撮影

vol. 32
December, 2016

特集

今夏の富士登山者数と保全協力金の状況

今夏の富士山八合目における登山者数は、約24万8千人で昨年の夏期登山者数と比較して、1万4千人増加しました。

ただし、静岡県側の登山者数は、約9万6千人と昨年よりも約1千人減少しています。

富士山保全協力金については、48,235人の方から46,525,569円のご協力をいただくことができました。

昨年との比較では、協力者数で4,443人の増、金額では、3,069,868円の増となっています。協力率は、4・8ポイント増の51・5%となりました。

協力金受付の様子

■富士山登山者数の状況（7月1日～9月10日）　※環境省赤外線カウンターによる計測

区　分	H28	H27	増　減	前年比率
静岡県計	96,492人	97,630人	▲1,138人	98.8%
富士宮ルート	59,799人	57,912人	1,887人	103.3%
御殿場ルート	15,697人	15,713人	▲16人	99.9%
須走ルート	20,996人	24,005人	▲3,009人	87.5%
山梨県吉田ルート	151,969人	136,587人	15,382人	111.3%
計	248,461人	234,217人	14,244人	106.1%

（平成27年の登山者数は、7月1日～9月14日）

■富士山保全協力金（7月10日～9月10日：確報）

	H28	H27	差
協力金額	46,525,569円	43,455,701円	3,069,868円
協力者数（A）	48,235人	43,792人	4,443人
登山者数（B）	93,706人	93,761人	▲55人
協力率　（C）＝（A/B）	51.5%	46.7%	4.8ポイント

※登山者数は、環境省が公表した7/10～9/10の県内3登山口登山者数

皆様からいただいた協力金は、山小屋バイオトイレの改修、外来植物の侵入防止対策事業といった富士山の環境保全や、富士宮ルート八合目の衛生センター（診療所）の運営期間の延長や山頂で混雑時に安全誘導員を配置するなどの登山者の安全対策に活用させていただいています。

ご協力をいただいた皆様には、この紙面を借りてお礼申し上げますとともに、来夏も富士登山をされる方には、引き続き、富士山保全協力金にご協力くださるようお願いします。

八合目衛生センター

外来植物防除マット設置状況（富士宮口）

富士山世界遺産センター（仮称）建設工事の状況

静岡県では、平成29年10月末の完成を目指して、富士山世界遺産センター（仮称）の整備を進めています。

今年3月末より建設工事に着手し、11月末現在、全体の進捗率は16・4％です。

今後も安全・品質の確保に留意して、着実に施設が完成するよう整備を進めてまいります。

平成28年3月～7月

3月に着工した工事は、4月にかけて事前準備や現場事務所の建設を行いました。6月には既成コンクリート杭の打設を行い、7月には掘削、基礎配筋、コンクリート打設と、基礎工事を行いました。

また、現場事務所脇には外壁の一部のモックアップ（実物大模型）を作成しました。鉄骨下地組み、外壁材貼り、木格子設置と各段階の作業工程の確認や問題点の抽出をしています。

杭打設後に
捨てコンクリートを打ち
いよいよ耐圧盤の配筋に入ります。

逆円錐形の展示棟に設置
される木格子のモックアップ
を作成しました。

平成28年8月～10月

8月には耐圧盤（基礎底盤）の鉄筋を組んでコンクリートを打設しました。

9月には基礎梁の鉄筋を組んでコンクリートを打設しました。

10月には、1階床の型枠を設置し、鉄筋を組み、コンクリートを打設しました。

耐圧盤（基礎底盤）の
コンクリートを打設しています。

基礎梁のコンクリート打設が終わり、
1階床の鉄筋を設置しています。

平成28年10月～11月

10月後半には、北棟の鉄骨を建て始め、11月には北棟に続いて西棟、展示棟コアの鉄骨を建てました。

北棟、西棟は引き続き2階、屋上の床工事を進めています。

12月中旬からいよいよ展示棟の逆円錐部分の鉄骨を建て始める予定のため、11月後半から逆円錐部鉄骨用の足場の設置を始めています。

北棟のシアターの
床鉄筋が組み終わりました。

北棟から見た
西棟・展示棟コアです。
いよいよ鉄骨が建ち始めました。

研究員コラム

近代化は山から始まったか？
～世界遺産イドリヤと水銀鉱山～

富士山は、文学や美術にしばしば登場する「美しい」山であると同時に、修験道などの実践者にとっては「聖なる」山でもあります。聖なる山は、富士山の他に日本列島各地に数多くあります。しかし、日本文化では、「美しい山」、「聖なる山」ともう一つの山観が存在します。これは、日本の山の民俗学の出発点とも言える柳田国男の『遠野物語』に出てきます。三島由紀夫などが既に指摘していますが、『遠野物語』にみる山の生活は、死と暴力で溢れている暗いものです。昭和期に流行した「日本のチベット」という表現も、山といえば近代化が遅れている貧乏な場所というイメージが強かったことを示唆しています。

しかし、ヨーロッパからみると、山にはむしろ近代的な側面もあります。その一つは鉱山です。アルプス周辺にたくさんある鉱山は、先史時代から利用されていました。これら金、銀、塩などの鉱山では、各時代の最先端の技術が利用されていました。今回は、その中からスロヴェニア共和国にあるイドリヤ水銀鉱山をご紹介しましょう。

アルプス山脈の東南部にあたるスロヴェニアの西部山岳地帯に位置するイドリヤでは、１４９０年の発見以来、水銀鉱山が１９９４年まで５００年間利用されました。この水銀鉱山が近世経済を支える中心の一つとなりました。この点が評価されて、２０１２年、スペインの水銀鉱山アルマデンと共に世界文化遺産として登録されました。

イドリヤは、小さな町ですが、地下に延長７００キロに及ぶ鉱山トンネルがあります。５００年の間、10万トン以上の水銀がこの鉱山から生産されました。当時、水銀は、鏡作り、薬のほか、金・銀の精錬に欠かせない物質として幅広く利用されていました。

イドリヤ水銀金山の「近代的な」側面として、少なくとも五つ挙げることができます。①鉱山内の機械など、当時として最先端の技術が使われたこと、②鉱山の運営が資本主義経済を基盤に行われたこと、③鉱山で働く鉱夫には、南ドイツ出身者が多く含まれるなど、イドリヤが国際的な町になっていたこと、④金・銀の精錬に必要な水銀の供給地として、山奥にあっても近世のグローバル経済に大きな貢献をしたこと、⑤鉱山で働いていた医者たちが医学や自然科学の研究を行い、イドリヤが近世科学の一つの発展地ともなったことです。

１９９０年代の鉱山閉鎖後も、このようなイドリヤの近代的伝統は町の経済活動で生きています。現在、イドリヤは、世界遺産の観光と共に持続性の高い新しい産業（電気製品の工場）に挑戦しています。イドリヤは、人間と山の関係にとって、歴史だけではなく、未来の生活についても考えさせてくれる興味深い場所といえるでしょう。

（文化・観光部 文化局 教授 ハドソン・マーク）

※本コラムは２０１６年８月11日、富士宮市で行った公演をまとめたものです

イドリヤ市とイドリヤ川

鉱山の水車

世界遺産ニュースレター NEWS Letter vol.32
発行／静岡県世界遺産センター整備課
〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 TEL.054-221-3657 FAX.054-221-3757
http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-150/fujisanwhc-top/fujisanwhc-top.html
e-mail whcenter-seibi@pref.shizuoka.lg.jp